

2月10日(水)令和3年度当初予算記者会見 質疑応答要旨

(記者)

地域医療連携強化事業について、基金を1億5千万円積み立てるということと、徳島県鳴門病院の人材確保、育成について支援するというお話がありましたが、支援期間の5年間、毎年1千5百万円ずつ鳴門病院へ補助金を出すということでしょうか。

(市長)

初年度は1千5百万円ですが、以降は、鳴門病院との協議の上、決定したいと思っておりますので、毎年、補助額は変わっていくこととなります。

(記者)

「健康づくりの推進と地域の医療を守り育む基金」は5年間で1億5千万円ということですか。

(市長)

上限を1億5千万円としております。

(記者)

5年間で1億5千万円を使い切るといえることですか。

(市長)

人材を確保するためには、様々な研修をする必要があると思いますし、その他、鳴門病院からご提案いただいた内容等を踏まえ、毎年、その事業に応じた補助金を支出していくことになります。

(記者)

財政状況について質問をさせていただきます。新庁舎や道の駅、浄水場の整備に係る水道事業会計への出資など過去最大の予算規模になっていますが、現状の財政状況について、どのような印象をお持ちですか。

(市長)

非常に厳しい状況です。

過去 3 年を振り返りますと、10 億円ずつポートルースから借り入れ、財政運営を行ってきました。

本市では、2020 年までの財政運営の計画である「スーパー改革プラン 2020」を策定しておりましたが、5年ほど前から政府が総合戦略を策定し、本市においても(鳴門市版総合戦略に掲載された)事業を進めていく中で、「スーパー改革プラン 2020」では想定されていなかった事業費における財源の捻出というところで、ポートルースの資金を活用しながら、やってきたというのが現状です。

今年度については、30 億円をポートルースから繰入していただき、それを使いながら、また基金に積み立てながら財政運営を行っていきます。

(記者)

来年度以降も新庁舎の整備に関する予算はさらに必要です

し、文化会館の耐震改修や市民会館に変わるスポーツセンターの整備についても、検討されると思いますが、今後の財源確保について、どのようにお考えですか。

(市長)

文化会館については、現在、徳島県と徳島市で新たな文化ホール建設の計画があり、先日、基本構想について見せていただきましたが、2,000席のホールと300から500席ぐらいの小ホールが、車で30分のところに出来上がります。

そのことを考えますと、文化会館自体も耐震改修だけでいいのかというところを検討していかなければいけない状況になってきていますので、まずは、今のマーケティングをして、適正な規模などについて考えていこうと思っています。適正規模等を見ながら、どのような対応をするか、財源がどれだけ必要かなどを決定していきたいと思っています。

また、市民会館に変わるスポーツ施設については、まずは文化会館の道筋を立ててから、検討していきたいと思っています。できるだけ早くという市民の声もありますが、大きな事業を連続

してやっていかなければならない部分もありますので、できるだけ重ならないようにしていきたいと考えています。まずは、文化会館の方向性から検討していきたいと思います。

(記者)

ポートルースからの一部繰入により、財政運営を行っていることについて、どのような考えをお持ちですか。

(市長)

過去においては、900 億円を超える繰入金を使い、多くの事業を展開してきました。それについては、良い点もありましたが、反省しないといけない点やその対応に追われている部分もあります。ポートルースはポートルースの中で、内部留保していく必要もありますし、我々としては、ポートルースがなくても、どうにかやっていけるような方向で事業を進めていきたいと思っています。ポートルース事業ありきで進めるということはないと思っています。